

「地 域 計 畫 に 就 て」

正 會 員 濱 田 秀 雄*

地域計畫とは如何なるものであろうか。其課題の範圍や其計畫の目標についての私見を述べて見たいと思ふ。

先づ第一に我々は何を目標にして此計畫を進めてゆくか其に就ては色々と考えられるのであるが此を大別して大體3つの目標が有ると思はれる、第1に鑛工業や農業を保護する經濟的根底を確保する事、即ち産業を確保すると云ふ事である。

第2は此等の産業に従事する人の居住を確保して其等の人々が幸福に而も高い能率で働き得る様にしてやる事である。

第3には一及び二を爲すに必要なより組織された交通網を確保する事である。

此の3つの確保をなす事が地域計畫の目標である。即ち我々の任務は經濟にしても居住にして將又交通にしても其の根底即ち土地を確保する事にあつて經濟計畫を樹てたり居住計畫を樹てたり交通計畫を樹てたりする事ではないのである。即ち經濟計畫なり交通計畫なり居住計畫なりは夫々の獨自の法則に従つて進むべきものであり地域計畫は其等の特殊計畫をして各獨自の道を進む事をして出來得る限り可能ならしむる如く土地の確保をなすものである。而して土地を通じて此等の各計畫をして有機的な相關關係を得さしめるものである。此の有機的な相關關係を得さしむる處に地域計畫の手段としての限界が存在する。

然らば總てのものが互に相關關係にある場合には如何と言ふに其場合に於ては明かに地域計畫の如き計畫を必要としない。物質文明が近代の如く急激に進歩しなかつた時代に於ては總てのものは除々に進歩した。従つて其所には總てのものは相關關係を維持し且つ進歩した。従つて今述べる如き地域計畫は必要としない事勿論であり、又地域計畫なるものの發主をも見なかつた。此は非常

に除々として發達する都市は都市計畫の必要少く急激に發達する都市程都市計畫の必要があるのと同じである。

然るに近代に於ては特に鑛工業に於てその進歩が著しく其他のものとの相關關係が稍々もすれば離し勝である。此は鑛工業内に於てすら其發達が部門別に相關關係を失し此所に空間的秩序を齊らすべき地域計畫が必要となるのである。

勿論相關關係は空間的のもののみでなく、其他色々と考えらるる事であらうか我々の任務は此内で其根底となるべき空間のみに就て論ずる事は勿論である。

都市計畫が政治、交通、産業文化等の急激なる發達に伴ひ其等と居住との相關關係に於て發生したものである事は都市計畫の發達の歴史を見れば明である。成程都市計畫法を見れば各國ともに色々と澤山並べてある様であるが要は此の相關關係を得んとする手段である。故に文化なり産業なり將又政治なり交通なりが變化すれば其によつて變化を受くべきは勿論である。

地域計畫は其必要性を上記の如く近代文化の急激なる進歩に伴ふ相關關係の喪失に負ふものであり従つて地域によつて其必要性を異にするは勿論である。南滿の如く或産業は20世紀の尖端を進みつつあるに係はず或物は數百年來變化する事なく其間程度の異なる色々な産業並びに交通機關等を數多く包含しつつある處に於ては其地域の受けつつある變化は最も強く従つて一番強く地域計畫を必要とする處であり、此に反し興安省の如く變化が除々に起りつつある。處に於ては現在の所其必要性が殆ど無い事は勿論である、即ち結論として地域計畫は靜的所産ではなくて寧ろ動的所産であり平時の所産でもあるがより多く戰時の所産である。

倍次にかかる土地の確保をなすに當つては經濟上や交通上の企畫や企業に對して豫め如何なるものが如何なる

處に如何様に起るかを洞察する必要がある。此洞察する方法として二つの方法が考へられる。

一つは該地域の能力と資源とを起點として下より上に計畫を進めて行くものと、二には全體の立場から計畫地域に課せられ課題と言ふ形で目標が計畫に上から規定されてくるものと有る。

第1の方法に就ては理論的に困難はない筈であるが實際上には種々の困難を伴ふものである。此困難は資源其他の所與物と其所與物の内蔵してゐる發展の機會についての實況を充分明かに調査を行ふには豫め諸種の相關關係に就て廣汎且つ詳細な研究を要する點に存する。

次に斯の如き研究が可能なりとするも文化の進歩に伴つて建設に對する手段なり自然に對する理解なりが時々刻々に變化し従つて其所與物の評價に就ても變化がある事になる。例へ上ぐれば石炭や木材に對する人間の理解である。以上の事から考へても地域計畫は最後の事實即ち絕對的性格を帯びたものではなくて常に立案當時の人間の智識程度を基礎として獨立した人間と土地との最も適當な並ぶ關係の暫定的な理想像であつて其儘に相對的な性格を持ち常に變更と改善を必要とするものである。

第2の方法によれば國中央計畫の立場から課題として與へられるものであるから共榮圏が變化するにつれて變化する事は勿論であり、更に他國との關係の變化につれて變化するは勿論である。即ち一によるものよりも一般には更に一時的なるものであり、相對的性格を帯びるものである。

此二つの方法即ち條件を具備する地域計畫が暫定的性格を帯びる事は當然であらう。常に變化するものたる事は論を待たない。

以上の如く地域計畫は理論上二つの出發點を持つものであるが而も其内國中央計畫は或程度の地域計畫の完成を待たなければ此を定める事は出来ない。此を例によつて説明すれば或地域が次の如き特殊計畫を持つていたとする。

	現在	計畫
都市人口	200萬人	500萬人
農村人口	300萬人	300萬人
農業用地	100萬ヘクタール	100萬ヘクタール

林地原野	100萬	同	100萬	同
其他の用地	40萬	同	40萬	同
農產品(主要穀物)	100萬噸		130萬噸	
電力	50萬K.W.		250萬K.W.	
石炭	500萬噸		2,000萬噸	
工業生産	計畫として現在生産の約4倍			

倍斯の如き計畫は可能なりや否や又相關關係の上に獨立し得るや否やは一に國中央計畫の獨立方法如何による事である。茲に如何なるものを國中央計畫とすべきであると云ふ事が明かとなる。

例へば食料問題を取上げれば500萬人の人が100萬噸の食物によつて自給自足し得る如き状態にありとすれば計畫としての800萬人に對しては160萬噸の食物を必要とする事となる。然るに本地域に於ては130萬噸以上の生産が不可能なりとせば人口を650萬人に制限するか又は80萬噸の食物を他より輸入する事となる更に此中間に無窮の解決の方法も見出され、其何れによるべきかは一に國中央計畫として決定すべきであり、又國中央計畫として如何なるものを取上ぐべきであかと云ふ事が地域計畫の成程度の見透しより誘導される事となる。今國中央計畫として食物の自給自足は此を今後共堅持し且工業生産は計畫に近く出來得る限り増大するの必要ありとし生産手段なり技術なりに變更無きものとせば4倍の生産をなすには4倍の勞働者を必要とする然るに都市人口は200萬人より350萬人に増加するのみにして同一比例にて勞働者が増加するものとすれば僅かに75%の増加に過ぎない。此を如何にして倍近くに増加せしめるか。例へば今200萬人中の工業勞働者を10%、商業並に交通に従事するものを20%と假定すれば350萬人となつた場合上記の要求を満足せしめる爲には工業勞働者を20%以上とする必要を生じ従つて商業並に交通に従事するもの及び其他のもの1%は此を上記の要求を満足せしむる程度迄引下げる必要がある。斯て國中央計畫に伴ひ都市人口の職業構成を國中央計畫に即應せしめる如く變更せしめる必要を生じる。斯て職業構成を變更せしめるには強力な經濟政策を必要とし國中央計畫は地域計畫のみならず地域計畫を達成せしめる手段として他の政策をも支助する事となる。斯の如く國中央計畫と地域計畫とは性格的に相當異なるものであり此が獨立に當つては多大の時間と努力を要する事勿論である。 (終) 9. 2. 13